

# 薬について



ハートクリニックデイケア看護師

# 今日のお話

1. 薬の一般的なこと
2. 精神科・診療内科で  
使われる薬について
3. 家族の役割



# くすりの名前



薬は3つの名前をもっています。

ひとつの薬に対していろいろな商品名のものが何種類も販売されている。

(例)

化学名： 1,3-dihydro-7-nitro-5-phenyl-2H-1,4- benzodiazepin-2-one

一般名： ニトラゼパム (nitrazepam)

商品名： ベンザリン(塩野義)・ネルボン(三共)

# 処方薬と市販薬



- **処方薬(病院でもらう薬)**

医師が診断をもとに処方する「処方薬」  
(医療用医薬品)

- **市販薬(薬局で買う薬)**

薬局でだれもが自由に見える「市販薬」  
(一般用医薬品)

# 薬の使い方からの分類



**経口薬** 口から飲む薬のことで、胃や腸で溶けて吸収され、血液中に入って飲んでから15～30分で吸収される。

**外用剤** 皮膚につけることで皮膚から吸収させる貼り薬や、患部に直接塗る軟膏や、目にさす点眼薬や点鼻うがい薬などの液剤などがある。

**注射・点滴薬** 皮下や静脈などに薬を直接注入するので、吸収が完全で早く、効果も早く現れる。

**座薬** 主に肛門に挿入して腸管粘膜から吸収されて効果を上げる薬。

**吸入薬** 吸入器で薬を口中やのどの方に散布する。気管支喘息などの治療に用いられることが多い。

# 内服薬の剤型から分類



錠剤

カプセル剤

顆粒剤

細粒剤

トローチ

チュアブル

シロップ剤

薬を一定の形に圧縮して作ったもの  
医薬品を粉末、顆粒、液状などにして、  
カプセルに入れたもの

薬を粒状におおきさをそろえたもの。

細かい粒状にしたもので

飲み込まずに口の中で溶かすもの。

水なしで噛み砕いたり、口の中で溶かして  
服用できる錠剤。

糖類、甘味剤を加えてのどの通りをよくし  
飲みやすくした内服薬。

# 薬の服用上の注意 1



## 服用時は

1. コップ一杯程度の水か、ぬるま湯で飲む。
2. 上半身を起こして飲む。

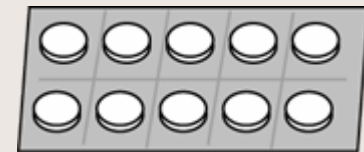
## 牛乳で薬を飲むのは？

時には構わない場合もある。



## アルコールで薬を飲むのは？

原則的には良くない



## 薬の保管上の注意

それぞれの保管方法で使用期限に使う

# 薬の服用上の注意 2



- ・副作用

クスリはリスク

- ・飲み合わせ

用法用量を守って正しく服用しましょう。



# 精神科・心療内科薬(向精神薬)の特徴



- 意識状態の変化を伴うことなく、人間の感情・思考・意欲などのこころの働きに作用する。
- 例えば...沈んだ気分を引き立てる。  
幻覚や妄想による不安や興奮を鎮める など  
その人の状態(症状)に合わせて薬が処方される。

# 抗精神病薬



- 作用 鎮静作用・抗幻覚・妄想作用  
適用—統合失調症・躁病・幻覚妄想を呈する  
脳血管疾患、身体的な疾患や中毒性  
精神病

主な薬—コントミン・レボトミン・リントン・セレネース・インプロメン  
ドグマチール・ロトピン・リスパダール・セロクエル  
副作用—錐体外路症候群・悪性症候群・自律  
神経系の障害・肝障害・過敏反応・内分泌障害

# 抗躁うつ薬①



## 抗うつ薬

・作用 抑うつ気分の解消

不安・焦燥感の緩和、意欲の向上

主な薬—パキシル・ジェイゾロフト・アナフラニール

アモキサン

副作用—自律神経系症状(口渇・便秘・排尿  
困難・頻脈・起立性低血圧・倦怠感)

眼圧上昇(緑内障患者は注意)

心電図への影響

# 抗躁うつ薬②



## 抗躁薬

- 作用 精神運動興奮の抑制

主な薬—炭酸リチウム（リーマス）

副作用—腎機能障害の方には禁忌

高齢者も腎機能が低下している為

注意が必要

リチウムの中毒症状

悪心・嘔吐・手指の振戦・眠気・めまい

食欲不振・下痢

# 抗不安薬



- 作用 情動面に作用し、不安・緊張を緩和  
鎮静催眠作用・筋弛緩作用・抗痙攣  
作用

神経症や心身症の不安・緊張状態の  
緩和に使用される

主な薬—リゾソ(セルソ)・デパス・ワイパックス・レキソタン

副作用—鎮静作用や筋弛緩作用による眠気

脱力感・ふらつきといった症状

動悸・せん妄・幻覚・妄想

# 抗てんかん薬



- ・ 作用 てんかん発作の抑制

主な薬—アレビン・リボトリール・テグレトール・デパケン(バレリン)

## 副作用

- ・ 精神神経系障害（眠気・めまい・眼振・失調）中毒量ではせん妄・錯乱などの意識障害や統合失調症状状態（幻覚・妄想）が出ることもある。
- ・ 造血器系の障害（顆粒球減少・白血球減少症再生不良性貧血など）
- ・ 皮膚、粘膜の障害（歯肉増殖、皮膚への発疹）
- ・ 催奇奇形（奇形出現頻度は、通常の2～3倍）
- ・ その他（肝障害・骨障害（くる病）・免疫系の障害（全身性エリテマトーデス・SLEなど）

# 睡眠薬①



- 作用

訴え・症状に合わせての睡眠状態の改善  
(寝つきが悪い、眠りが浅い、朝早く目が覚めてしまうなど)

主な薬—バルビツール酸系 (イミタル・ラボナ)

副作用—連続使用にて効果が落ちる事がある。  
(耐性形成)

慢性中毒 (情緒不安定・注意力散漫・記憶力の低下・眼振・運動失調・構音障害など)

## 睡眠薬②



- ・ 非バルビツール酸系（フロバリン・アモバン）  
副作用

バルビツール酸系に比べると依存性は低い。

- ・ ベンゾジアゼピン系（ベンザリン・ハルシオン・デパス・  
ユーロジン・レンドルミンなど）

比較的大量服薬しても、致死に至らない事や  
依存性が低い事が特徴

副作用は他の睡眠薬と同様



# 抗酒薬



- 作用

アルコールの酸化過程を阻害し嫌酒効果を得られる。飲酒すると、急性に心悸亢進、紅潮、嘔吐、発汗、頭痛、血圧下降の症状があらわれ、不快を感じる。

主な薬—シアナマイド・ノックビン

副作用—疲労感・眠気脱力感・肝障害

アレルギー—性皮膚炎

精神症状(幻覚・妄想・せん妄・興奮・抑うつなど)

# 抗パーキンソン薬



- ・ 作用

主として抗精神病薬の副作用である錐体外路症状を治療したり、防止するために使用される。

主な薬—タズミン（アキネトン） ・ トリフェジノン

副作用—自律神経系に影響を及ぼす。

起立性低血圧 ・ 口渇 ・ 便秘など

# 家族の役割 病気の理解



- 病名・・・どんな病気 主な症状
- 治療・・・薬、治療方針, 期間
- 診察の同席・・・病気の理解、代弁  
(家族だけで別の日の受診もあり)

# 家族の役割 薬の理解



- どんな薬を服用するのか
- 薬の飲み忘れた時の対応
- 頓服の使い方
- 服用期間・・・1日何回の服用  
副作用の状態（薬の変更によるもの）

※主治医の指示を確認しておく

# 家族の役割

## 薬の管理の必要性

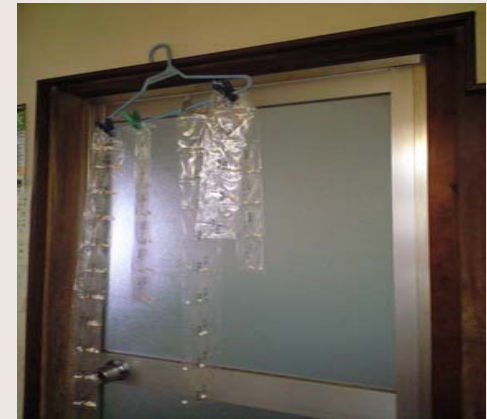


- 本人の状態・・・薬の服用での変化  
副作用の対応
- 飲み忘れ阻止・・・指示通りの服用で治療  
の効果が期待できる
- 乱用防止・・・勝手な服用による状態の  
悪化を防ぐ
- 頓服の残量・・・過度な服用による依存  
貯めこみを防ぐ

# 家族の役割 薬の管理の実際



- 保管場所・・・家族もわかる場所
- 服用の確認
- 残量確認



※診察時に主治医に話す

# まとめ

- 家族の理解

“一緒に治す”という気持ちで

- 見守る距離

見える距離での関わり、関わり過ぎない



ご清聴有難うございました

次回9月7日

テーマは「認知行動療法」です

